

平成31年度教育委員会主要施策の概要について

資料 3

※内容については、教育委員会内で調整を行ったものであり、今後、市予算編成過程において変動する場合があります。

平成30年12月26日：平成30年度第2回西脇市総合教育会議

総合計画の位置づけ			現 状 と 課 題	平 成 3 1 年 度 の 主 な 取 組
基本政策	政策	施策		
未来を拓く次世代が育まれるまち	就学前教育と保育サービスを充実する	就学前教育・保育を充実します	<ul style="list-style-type: none"> ○平成29年度から「しばざくら幼稚園」3歳児～5歳児の複数年教育を実施 【平成31年度在籍見込み児童数】 (括弧内30年12月在籍者数) 3歳児：19人 (27) 4歳児：33人 (32) 5歳児：32人 (20) ○平成29年度から幼稚園1園と認定こども園8園で就学前教育・保育を担っており質の高い教育・保育の提供を引き続き求められている。 	就学前教育推進事業【拡充】 <ul style="list-style-type: none"> ○研修年間計画に基づき、計画的に実施し幼稚園教諭や保育教諭の資質を高め、質の高い教育・保育を提供する。 <ul style="list-style-type: none"> ・幼保交流研修会 30年度 15回 ○質の高い教育・保育を確保するために、幼児教育センター職員による巡回訪問を実施し、3歳児～5歳児の教育について指導助言を行い、職員等の資質向上にあたる。 <ul style="list-style-type: none"> ・現場交流 30年度予定回数85回 ○就学前教育・保育の評価・点検【拡充】
		就学前教育・保育施設の運営を支援します	<ul style="list-style-type: none"> ○社会状況の変化や保護者等の就労状況、価値観の多様化などにより、教育・保育ニーズも変化、多様化している。 ○保護者の働き方や各家庭の状況に合わせた支援ができるよう、延長保育や休日保育など、より一層の充実が求められている。 ○少子化に伴う園児の減少や国の幼児教育無償化施策による保育需要の変動に対応した保育体制を構築する必要がある。 	認定こども園補助事業【継続・新規】 <ul style="list-style-type: none"> ○各種補助事業の実施により、経営基盤の安定を確保し、保護者の多様なニーズ等に応え、教育・保育の提供に寄与する。 <補助等事業名> <ul style="list-style-type: none"> ・児童保育処遇向上事業 ・長時間保育事業 ・障害児保育事業 ・3号認定子ども受入れ保育教諭保事業 ・一時預かり事業 ・児童健康診断事業 ・傷害保険掛金助成事業 ・特別支援教育・保育経費補助事業 ・保育教諭人材確保事業 ・幼保連携型認定こども園化推進事業 ・事故防止推進事業（仮称）【新規】
		放課後の居場所をつくります	<ul style="list-style-type: none"> <現状> ○本市において放課後児童クラブは、一部の学校を除き、小学校1年生～3年生を対象に実施しているが、本来は1年生～6年生を対象に実施するものとされており、学校の空き教室、旧幼稚園施設を利用し、全学年を受入れ、放課後児童クラブの運営を検討している。 <課題> ○支援員の確保 ○生徒指導対応、保護者対応 ○支援が必要な児童に対する支援 ○支援員の資質向上 ○高学年受入時の環境整備 【参考】 平成30年度在籍人数 397人 対象：小学校1～3年生までの児童（双葉、芳田は全学年を受入れ）、特別支援学級在籍児童の4～6年生 ※平成30年11月末までの平均実績値 平成31年度在籍予想人数 589人 対象：小学校1年生～6年生 ※実績見込み 	放課後児童クラブ事業【拡充】 <ul style="list-style-type: none"> ○全学校で全学年の児童を受入予定。 【具体例】 <ul style="list-style-type: none"> ・西小は旧幼稚園を転用し、4室で実施予定。 ・日小は空き教室2室で実施予定。 ・重小はプレハブ3棟を利用。 ・楠丘、桜丘は旧幼稚園を転用しそれぞれ2室で実施予定。 ・比延、芳小、双小は現状のまま。

総合計画の位置づけ			現 状 と 課 題	平 成 31 年 度 の 主 な 取 組
基本政策	政策	施策		
未来を拓く次世代が育まれるまち	学校教育を充実する	学力を向上します	<p>○本市では学力向上のための施策として次の取組を実施している。</p> <p>【今年度重点取組事項（現状と課題）】 学力低位層児童生徒への働きかけ</p> <p>①生徒指導 自尊感情、自己有用感への働きかけ</p> <p>②家庭環境への働きかけ ソーシャルスクールワーカーの効果的な活用</p> <p>③居場所のある学級づくり 学級満足度調査の活用</p> <p>④家庭学習への支援 時間帯・場所設定の支援 インターネット利用の規制</p> <p>⑤個別指導・少人数指導への取組 授業内容への理解不足</p> <p>⑥授業方法の工夫 一斉指導における課題の把握</p> <p>⑦つまずきのポイントの分析と対応 学力調査等の分析と指導方法の研究</p> <p>【具体的施策例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に関する会議委員会等の開催 ・学力向上スーパーティーチャーの配置 ・市内統一調査の実施 ・放課後学習支援員の配置 	<p>にしわき学力向上事業【継続】</p> <p>※Hyper-QU, Q-Uについては、生徒理解促進事業へ移行し継続する</p> <p>○西脇学力向上推進会議（年2回） 学校関係者の他に大学教授、高等学校校長、幼児教育センター長、学力向上スーパーティーチャー等を委員とした会議を開催。学力向上推進会議日より等により、全国・学力学習状況調査における調査結果や課題等について周知を図る。</p> <p>○学力向上推進委員会の開催（年4回） 今年度の重点取組事項の現状や課題について、各校から選出されたメンバーで協議する。</p> <p>○教科研究グループの開催（年5回） 国語、算数・数学の教科担当で構成。全国学力・学習状況調査の問題の分析、児童生徒の結果の分析、授業での指導の工夫・改善等について研究する。</p> <p>○学力向上ウィークの開催（のべ14日） 第1期 菊池省三氏による学力向上講演会（4月） 第2期 菊池氏による指導訪問（10月） 第3回 つまずきを基にした授業研究会（11月）</p> <p>○学力向上講演会（2回） 講師：大阪大学教授 志水教授（11月） 講師：松原市立天美小学校長 橋本先生（1月）</p> <p>○市外研修（視察研修） 訪問先：松原市立天美小学校（11月）</p>
			<p>○ALTを活用した英語教育の充実ための施策として次の取組を実施している。</p> <p>【現状と課題】 新学習指導要領の全面实施により、2020年から小学校における外国語教育が本格的にスタートする。3・4年生から外国語の学習（外国語活動）が早期化して始まり、5・6年生では外国語が教科（英語）となる。移行期1年目となる今年、ALTが2人増員となりすべての小学校に1日は配置できている。</p> <p>また、活用については、西脇市版カリキュラムにより全小学校で外国語の授業実施。ALTとはカリキュラムを英語版で共有し、学校教育における外国語の授業で適切な指導補助ができています。</p> <p>【参考】※西脇市での授業時間総数です。 平成30年（移行期1年目） 中学校外国語総授業数 4,480時間 小学校外国語総授業数 1,460時間 平成31年（移行期2年目） 中学校外国語総授業数 4,340時間 小学校外国語総授業数 1,510時間 平成32年（新学習指導要領全面实施） 中学校外国語総授業数 4,340時間 小学校外国語総授業数 2,520時間</p>	<p>ALTを活用した英語教育の充実【継続】</p> <p>【今年度重点取組事項】 使える英語力育成にむけての授業づくり</p> <p>①ALT研修会 ・月1～2回、研修会を実施 ・課題を準備して研修会に参加し、協議・演習等を行う。 ・英語教育担当者会で開催する研修にも参加</p> <p>②小学校の授業でのALTの活用 ・小学校にALT6人を一斉に派遣し児童の英会話力を育成する （グループに分かれて実施）</p> <p>③中学校の授業でのALTの活用 ・中学校にALT6人を一斉に派遣し、聞くこと・話すことの力を育成する。 （1対1で実施）</p> <p>④昼休み・放課後等を活用した英語タイムの開催 ・英会話タイムの実施 ・絵本の読み聞かせの実施</p> <p>⑤英検2次の面接試験に向けた練習開催 ・2次試験の英語による面接練習</p> <p>⑥レントン使節団事前強化研修 ・レントン申し込み希望者への英語面接練習の実施 ・使節団員の強化研修</p>

総合計画の位置づけ			現 状 と 課 題	平 成 31 年 度 の 主 な 取 組
基本政策	政策	施策		
未来を拓く次世代が育まれるまち	学校教育を充実する	豊かな心と健やかな体を育みます	<p>体力向上における現状と課題</p> <p>平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5、中2対象）の結果（平成30年2月報告）によると、西脇市の児童生徒は体力総合評価において、全国平均を下回っている。各種目においても、小学校は男子の長座体前屈とソフトボール投げ、中学校は男子の握力において、全国平均を上回っているが、他の種目は全国平均を下回っている。</p> <p>中学校では、「運動が好き」と答えている生徒の割合は全国平均並みであるが、小学校では、全国平均をやや下回っている。特に小学校女子は、「運動が好き」と答えた児童の割合が少ない。</p>	<p>いきいき体力づくり推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内統一体力テストを実施し、現状の把握と分析を行う。 ・体力テストの結果記録についての市独自の認定証を全員に交付することで、児童生徒一人ひとりが自分の体力の現状を把握し、体力向上の意識付けを行う。 ・体力テストの成績優秀者に体力章を交付し、体力向上の意識付けを行う。 ・体力向上に係る研修会を行うことで、体力向上につながる、体育の授業の改善を図る。
			<p>道徳教育における現状と課題</p> <p>○豊かな心の育成</p> <p>【平成30年度全国学力・学習状況調査生活質問紙の回答より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分によいところがあると思いますか？ 当てはまる…34.1% どちらかといえば当てはまる…46.5% どちらかといえば当てはまらない…14.1% 当てはまらない…4.1% <p>○いじめを許さない児童生徒の育成</p> <p>【平成30年度全国学力・学習状況調査生活質問紙の回答より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか？ 当てはまる…81.5% どちらかといえば当てはまる…12.9% どちらかといえば当てはまらない…3.5% 当てはまらない…1.8% <p>○徳科の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」（道徳科）の実施 小学校 平成30年度4月から 中学校 平成31年度4月から ・授業の質的変換 分かりきったことを言わせ書かせる授業 他律にとどまり自律につながらない授業 ・教科化による評価の取組 児童生徒を「認め励ます評価」の取組 	<p>道徳教育の充実</p> <p>○学校の教育活動全体を通じた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育年間指導計画の作成（全校） ・各教科等での指導、家庭・地域との連携を整理した別葉の作成（全校） ・道徳科年間指導計画の作成（全校） <p>○西脇市道徳教育授業研究会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の実践的指導力向上 ・「考え、議論する」授業づくりの工夫 <p>○各校研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態や各学校の課題に応じた取組 <p>○研修会への講師派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善と評価に関する研修の実施 ・専門的な視点による助言 <p>○保護者・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参観日やオープンスクールでの授業公開 ・学校・学級だより等での取組のお知らせ ・道徳教育に関する学校評価アンケート ・学校評議委員による意見

総合計画の位置づけ			現 状 と 課 題	平 成 31 年 度 の 主 な 取 組
基本政策	政策	施策		
未来を拓く次世代が育まれるまち	学校教育を充実する	教職員の資質向上を進めます <p>現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増加する若年教員等の指導力向上 ・時代に応じた教育課題に即応できる指導力の向上（英語教育・道徳教育・プログラミング教育他） ・新学習指導要領完全実施に向けた授業等の改善 ・小中教科部会が連携した授業研究の活性化 ・学校でのメンター制度（初任者の相談役となる教員）やOJT（具体的な職務遂行を通じて必要な知識・技術・技能・態度などを意図的・計画的・継続的に指導し合い、習得度を高める職場活性化システム）充実等による人間性豊かな、信頼される教員の育成 ・退職教員の積極的な活用 	各種研修事業等 <ul style="list-style-type: none"> ○初任者研修（設置者研修3回） <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導、生徒指導他 ○中堅・円熟研修期教員研修（8月） <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーの育成 ・学力向上他 ○学力向上推進委員会の実施（年4回） <ul style="list-style-type: none"> ・算数（数学）、国語の基礎学力の向上 ・学力低位層への指導 ○小学校の英語教科化に向けた研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ALTとの効果的な連携 ・ICTを活用した4技能の向上 ○道徳教育研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめを逃さない心の醸成 ・発達段階に応じた豊かな心 ○特別支援教育研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・障がいへの適切な支援とは ・障がいのある児童生徒への合理的配慮 ○部活動の方針の周知 ○新学習指導要領の円滑実施に向けた指導体制の充実他 	
	教育を支える環境を整える	安全・安心で質の高い教育環境を整備します <ul style="list-style-type: none"> ○西脇小学校の木造校舎は、保存改修に決定したため、安全性、耐震化、音、温熱、水周り、トイレ、バリアフリー等の学習環境、景観、歴史の継承、地域性、文化的価値等の社会的価値、費用面及び施工性など、総合的な検討を行い、子どもたちが快適に過ごせる環境を創出する必要がある。 ○RC棟の改修及び外構整備は必要な改修に抑制する予定。 ○西脇小学校のプールについては、市内全体の学校施設の長寿命化計画を策定後、適正な学習環境規模（小中一貫、統廃合等）の方針により、今後の対応を行う。 	西脇小学校校舎整備事業【継続】 <ul style="list-style-type: none"> ○RC棟校舎 <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修、太陽光発電機器設置 ○外構工事 <ul style="list-style-type: none"> 校舎改修後の景観に配慮した周辺の外構工事 	
		<ul style="list-style-type: none"> ○目的 <ul style="list-style-type: none"> 適正な学校学習規模により、児童・生徒の学習の場及び生活の場として、安全・安心で快適な学習環境を整備するとともに、持続可能な学校運営に資するため ○現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・少子化・高齢化による人口減少時代を迎え、児童生徒の減少とともに、労働人口の減少に伴う教師不足も予測される。 ・一方で学校施設の多くが、築後の経年劣化により大規模な改修が必要な時期（築20年経過後）である。 ・学校のプールも多くの施設が築50年経過しており、老朽化が激しいため、適正な維持管理修繕を行い、安全・安心な教育環境を確保していく必要がある。 ・将来を見据え、小中一貫教育の導入や学校の統廃合の方針により、施設整備を含めた適正な学習環境規模を検討する時期に来ている。 	適正な学習環境規模の検討 <ul style="list-style-type: none"> ○個別施設計画（長寿命化計画）の策定 ○人口推計、学校施設の維持管理コストの推計等、客観的なデータによる学習環境規模の検討 ○小中一貫教育導入の検討 ○推進スケジュール及び推進手法の検討・明確化 ○地域への啓発・の意識醸成及び地域との協働 ○学校学習環境規模適正化方針（仮称）の策定 	

総合計画の位置づけ			現 状 と 課 題	平 成 31 年 度 の 主 な 取 組
基本政策	政策	施策		
未来を拓く次世代が育まれるまち	教育を支える環境を整える	安全・安心でおいしい学校給食を提供します	<p>現在、再任用職員1名を含む10名の正規調理員と午前パート14名、午後パート8名で調理業務を行っているが、定年退職等による自然減で平成33年度には正規調理員が6名に平成35年度には4名になる。将来にわたって安全安心でおいしい給食を継続して提供するために、調理業務の在り方について「学校給食センター運営方式検討委員会」を設置し検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回目：平成30年7月2日 ○第2回目：平成30年9月5日 ○第3回目：平成30年10月15日（視察） ○学校給食アンケート実施：平成30年10月9日～26日の間（回収率 76.2%） ○第4回目：平成30年12月5日 ○第5回目：1月下旬～2月初旬日程調整中 	<p>学校給食センター運営方式の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校校区ごとに保護者説明会 ○調理業務委託内容の検討
		適切な教育機会を確保します	<p>特別支援教育の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○適切な就学先判断のための体制整備 <ul style="list-style-type: none"> ・就学先判断のための基準と仕組みの周知 ・学校園間の連携の在り方（情報交換、学校園訪問、支援に係るケース会議等） ○教員の特別支援教育に関する専門性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・市内教員の特別支援学校教員免許取得数 小学校教員…12名 中学校教員…4名 ・特別支援学級教員の特別支援学校免許状保有状況 西脇市…18.2% （兵庫県公立…25.2% 全国…30.7%） ○個に応じた支援の計画の立て方と具体的な指導方法の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の障害特性の把握 ・障害特性の把握に基づく適切な指導計画作成 ・障害に応じた自立活動等の指導力向上 ○通常学級における支援体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な通常学級在籍児童生徒への支援体制整備 ・特別支援教育の視点を生かした学級経営 ・授業づくり ○心身障害児介助員の取組と評価 <ul style="list-style-type: none"> ・介助の対象児童生徒・役割を明確にした適切な配置 	<p>特別支援教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心身障害児介助員の配置 <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活での安全確保 ・個々の特性に応じた適切な支援の保障 ○医師・臨床心理士による発達相談事業 <ul style="list-style-type: none"> ・教育医療相談による医療の視点の助言 ・支援・就学先判断のための発達検査 ○専門家による巡回指導訪問（市内全12校） <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級及び通級指導での助言 ・就学先判断についての相談 ・「西脇市サポートファイル」作成の助言 ・特別支援教育授業研究会での助言 ○特別支援教育に関する研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関わる教職員の専門研修 ・全教員対象の市の課題に係る研修 ・初任者教員対象の特別支援教育基礎研修 ・心身障害児介助員対象の研修 ・先進的实践校への教員訪問研修 ○特別支援教育授業研究会の実施（年2回） <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校各1回の授業研究会開催 ・特別支援学級・通級指導での指導力向上 ○特別支援教育推進部会の開催（年4回） <ul style="list-style-type: none"> ・西脇市の特別支援教育の方向性や課題・改善策について協議
			<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度より、市費により子ども多文化共栄サポーターを派遣している。（年間20回） （小学生男子生徒 ペルーにルーツあり スペイン語） ・サポーターを派遣することにより、当該児童の精神的安定につながり、充実した学校生活を送ることができている。 	<p>子ども多文化共生サポーター派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導が必要な児童生徒にサポーターを派遣する。（年間20回程度） （中学生男子生徒 ペルーにルーツあり スペイン語） ・今後も、継続してサポーターを派遣し、該当児童が安定した学校生活を送れるようにきめ細かな支援を行う。

総合計画の位置づけ			現 状 と 課 題	平 成 31 年 度 の 主 な 取 組
基本政策	政策	施策		
生涯活躍・共生社会の実現	生涯学習を充実する	生涯学習事業を行います	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館の移転後、1階部分を閉鎖しており、スペースが有効活用されていなかった。 ○図書館移転によって人の流れが変わり、郷土資料館への来館者数が大幅に減少していた。 ○施設が老朽化し、バリアフリーや安全面において修繕、改修が必要であった。 	<p>生活文化総合センター改修に伴うリニューアルオープン</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1階部分を市民の学びと交流のスペースとして、市民サロンやギャラリー、ミーティング室、図書コーナー、学習室等に改修し運営する。 ○子育て学習センター・あいあいランドを市民センターから移設する。 ○トイレの洋式化や授乳室の設置等、バリアフリーや床暖房等、子育てに配慮した設備改修をする。 ○市民が施設を利用しやすいようお祭り広場に駐車場を設ける。 ○施設利用について、市民に向けて情報を発信し、リニューアル後の利用促進を図る。
		学習成果の地域への還元を支援します	<ul style="list-style-type: none"> ○学習する人と活動できる場を結びつける仕組みを拡充し学習の成果を地域のまちづくり活動に生かす機会を充実するとともに、学びと実践の一体化の視点に立った自主的な活動を支援する。 ○地域学校協働本部事業のボランティア登録者による各種学校支援活動の推進、生涯学習アニメーターバンク制度の周知による生涯学習支援、高齢者大学のフォークダンスやオカリナ講座等学んだ成果を生かし、各種施設への慰問やステージ発表等のボランティア活動を行っている。 ○課題として、地域学校協働本部事業においては、学校に対して制度の活用PRを促し、登録ボランティアが多方面にわたり活動の機会を増やしていく必要がある。また、アニメーターバンクについても、制度の周知を重点におきながら、登録者の人材発掘とともに市民の学習・活動ニーズに合った人材を派遣できるよう適切なマッチングシステムを確立し、コーディネートをしていく必要がある。高齢者大学については、地域貢献活動を通じて生きがいづくりとともに、学びと活動の好循環を創出する取組を推進する必要がある。 	<p>○地域学校協働本部事業【継続】</p> <p>継続して事業内容の周知を図るためのPRに努めるとともに小中学校との連携を深め、ボランティア登録者の活動の機会を拡大。</p> <p>○生涯学習アニメーターバンク事業継続【】</p> <p>登録者の人材発掘と登録者の活動機会のマッチングシステムを確立させ、学習・活動ニーズに合った人材派遣を行う。</p> <p>○高齢者大学生による地域活動の活性化</p> <p>学生が講座の中で習得した技能や技術を地域のボランティア活動に生かす活動を計画するとともに、支援するための情報交換やネットワークづくりを推進する。</p>

総合計画の位置づけ			現 状 と 課 題	平 成 31 年 度 の 主 な 取 組
基本政策	政策	施策		
生涯活躍・共生社会の実現	生涯学習を充実する	生涯学習の推進体制を確立します	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたって「いつでも、どこでも、だれでも」行える学習環境を図り、そこで得られた成果を自己の者だけではなく、地域づくりにつなげる生涯学習社会の実現に向けて取組を進めている。 ○課題として、今後ますます進行する少子高齢化や人口減少を念頭に、生きがいつくりとともに、地域社会の課題解決に向けた学びをさまざまな活動に結びつけていくためにも、生涯学習の推進体制を確立していくことが必要である。 ○各種講座・教室の充実や公民館講座の自主運営化などを通じて、学習環境の整備を進めており、多くの市民が生涯学習活動に参加しているが、講座内容や受講生の固定化が懸念されている。 ○社会を取り巻く環境や市民の価値観や学びに対するニーズも多様化する中、適切な市民の意向の把握や市民が主体となった講座・教室の運営などにより、市民ニーズに応じた多種多様な学習機会を提供していく必要がある。 	<p>○公民館教養講座・自主運営講座の活性化</p> <p>現在、開催している講座の検証を行うとともに、新たな学習プログラムを提供するためのアンケート調査を実施し、市民ニーズに合った講座・教室の新規開設し、多様な学習機会を提供する。</p> <p>○高齢者大学の活性化</p> <p>高齢者がいきいきと活躍できる学習機会を提供し、学生自らが習得した技能や技術を活用し、地域ボランティア活動を通じて生きがいつくりを推進することができる基盤づくりを行う。</p>
		図書館サービスを充実します	<ul style="list-style-type: none"> ○西脇市図書館蔵書収集3か年計画（平成28年度～30年度）により、平成30年度末には20万冊となるよう収集に努めている。 ○引き続き、日本でトップレベルの利用実績を達成するためには、相応の蔵書数が必要であり、内容も魅力ある資料を整備する必要がある。 ○平成30年度末目標蔵書数…約 200,000冊 	<p>図書館用図書充実事業【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2019年度以降の蔵書収集計画については、西脇市と同人口レベル（4万人台）の図書館の利用実績トップ10の蔵書数平均値と当館の所蔵能力に鑑み、収集目標の最大値25万冊を目指す。 ○25万冊を収集する期間については、今後の課題であるが、図書館としては、5年程度の期間で目標達成を目指したい。 ○5年程度の期間で目標を達成するには、今後年間約9500冊の図書購入が必要となる。 ○2019年度末目標蔵書数…約 210,000冊
			<ul style="list-style-type: none"> ○「子どもの読書活動推進計画」を平成30年度中に策定。 ○平成30年度中に郷土カルタの原案を作成。 ○家庭、学校園、地域等と連携を図りながら、図書館事業を展開し、子どもの読書活動の推進に努める。 ○西脇市の郷土資源を郷土かるたにし、遊びながら学ぶことで、子ども達の郷土に対する認知度の向上と郷土愛の意識高揚を図る。 	<p>子どもの読書活動推進事業【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○西脇市郷土カルタを作成し、各小学校の児童に配布し、郷土かるたの普及推進を図る。 ○子どもの読書活動推進計画に基づき、子どもの読書活動の推進を図る。 ○学校園への団体貸出を推進するために、引き続き図書の運搬業務を委託する予定。 ○0歳児からの読書支援として、ブックスタート（出生時等に絵本の配布）事業を継続する。 ○読書通帳の更なる普及を目指す。 ○おはなし会の出前講座やブックトーク等を通じて、学校園との連携をさらに推進する。

総合計画の位置づけ			現 状 と 課 題	平 成 31 年 度 の 主 な 取 組
基本政策	政策	施策		
生涯活躍・共生社会の実現	生涯スポーツを振興する	ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子高齢化が進み、当たり前のように支えられてきたスポーツ活動が希薄化している。これまでと同様に子どもたちが社会の恩恵を受け、スポーツ活動に取り組めるよう環境整備を行う必要がある。 ○ 働き方が多様化する中、スポーツ活動への意識が減少している。意識高揚と参加機会の創出に向け、スポーツ情報の発信やスポーツ大会・イベントの開催を行う必要がある。 ○ 運動への関心が低い層や時間的制約がある市民などが、気軽にスポーツ活動に取り組めるような環境づくりを行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ少年団の運営支援【継続】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの健全育成とスポーツに親しむ機会づくりに向け、スポーツ教室などを開催するとともに、スポーツ少年団の運営支援を行う。 ○ スポーツ活動団体情報発信サイト開設の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内のスポーツ活動を紹介し、自分に合ったものを選択できるよう「見える化」を推進する。 ○ 障害者スポーツ大会への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者がスポーツに参加しやすい環境を整備し、スポーツの楽しさを体験できるイベントや大会について支援を行う。 ○ 健康ポイント制度の推進・充実【継続】 <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツを行うだけでなく、その活動が自身の健康につながることを意識付けすることで、スポーツと健康のつながりを「見える化」する。
		スポーツを支える環境を整備します	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内のスポーツ施設の老朽化が目立つ。指定管理者制度の活用などにより、効果的・効率的なスポーツ施設の運営を行うとともに、計画的な整備・改修を行う必要がある。 ○ 少子高齢化が進む中、指導者の世代交代が行われずに苦慮されている。引き続きスポーツ関係団体の育成・支援を行うとともに、指導者やボランティアの育成を行う必要がある。 ○ 地域交流を目的としたスポーツ活動が衰退する中、地域が主体となるスポーツクラブの運営を支援し、市民の健康づくりとスポーツの普及・促進に向けた体制を再構築する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指定管理者制度活用による施設運営【継続】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設毎に長寿命化計画等を作成し、計画的な施設運営を行うの研究を行う。 ○ ウォーキングコースの整備【継続】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度に作成した市内100kmウォーキングコースの見直しを図り、利用増進に取り組む。 ○ 学校体育施設の開放【継続】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き学校体育施設の開放を行い、スポーツを楽しめる環境を整える。 ○ スポーツ推進体制の再編 <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化や働き方が多様化する現在に合わせ、スポーツ関係団体のネットワーク化などを推進する。 ○ 新規指導者の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者やボランティアの育成を行うとともに、地域による一貫した指導体制を研究する。

総合計画の位置づけ			現 状 と 課 題	平 成 31 年 度 の 主 な 取 組
基本政策	政策	施策		
生涯活躍・共生社会の実現	生涯スポーツを振興する	特色あるスポーツの振興と交流を推進します	<p>○オリンピック・パラリンピックホストタウン事業が一時的なものに終わらぬよう、オリンピックレガシーとして引き継いでいく必要がある。</p> <p>○駅伝やマラソンは西脇市の特徴的なスポーツ活動であり、地域資源として利活用する必要がある。</p>	<p>○生涯スポーツ推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020東京オリンピック・パラリンピックを契機に健康をキーワードにしたまちづくり活動に寄与するため、卓球による生涯スポーツの振興を図る。 <p>○西脇多可新人高校駅伝競走大会の開催【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12回大会を迎え、大会の充実はもちろんのこと、地域で支えることや交流事業に重点を置くとともに、地域づくりの一つのコンテンツとして西脇市・多可町が一体となり、テレビ放映などにより市内外へPRを行う。 <p>○日本のへそ西脇子午線マラソンの開催【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国各地から訪れるランナーを西脇市ならではのおもてなしによりお迎えすることや特性を活かしながら、神戸マラソン等と協力することで、スポーツの振興、市民の健康づくりや交流を推進する。
	文化・芸術を振興する	文化・芸術活動を支援します	<p>○西脇市文化連盟をはじめとした文化団体の活動をサポートし、また多様な文化・芸術活動の担い手の育成を支援するとともに、子どもから高齢者まで、多くの市民が文化・芸術に触れる機会を提供し、文化活動に興味を持っていただき活動に繋げていけるよう取組を進めている。</p> <p>○課題としては、文化・芸術に対する価値観や娯楽の多様化、ライフスタイルの変化などに伴って、文化的な活動や習い事に時間を費やすことが少なくなっており、文化団体では後継者育成や人材の確保・育成などが大きな課題となっている。</p>	<p>○岡之山美術館企画展補助事業【継続】</p> <p>本館空調設備機器の入替えを行い、館内展示室等を恒温恒湿に保つことのできる空調環境の整備を図るとともに、ギャラリー照明器具をLEDに交換及び調光器の施工を行い、展示機能の強化を図った。</p> <p>今後、現代美術家の展示拠点としての美術館を目指した企画展等を開催を実施する。</p> <p>○サムホール大賞展開催事業【継続】</p> <p>32年度に3年に一度のトリエンナーレ方式で開催するサムホール大賞展の開催に伴い、31年度にポスター、募集要項等を作成し作品を全国公募するための準備等PRを実施する。</p>

総合計画の位置づけ			現 状 と 課 題	平 成 31 年 度 の 主 な 取 組
基本政策	政策	施策		
生涯活躍・共生社会の実現	文化・芸術を振興する	文化振興を支える環境を整備します	<p>○文化・芸術活動の推進を図るためには、効果的・効率的な運営を行うとともに、文化・芸術活動の拠点施設の計画的な整備・改修を行い、文化振興を支える環境づくりが必要である。 アピカ音楽ホールは開館から22年が経過しており、施設の老朽化や経年劣化による器具等の不具合が生じてきており、施設の快適性や利用者のニーズに応えるための改修・更新を行う必要がある。同様に、地球科学館においても開館25年が経過し、施設の経年劣化や来館者の安全性を確保するための改修・更新時期が生じている。</p>	<p>○アピカ音楽ホール管理運営事業【継続・新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3階トイレ改修工事 平成30年度に控室・リハーサル室のある3階の女性トイレを洋式化を実施。継続して男子トイレについても利用者から要望多いことから、洋式化を図る。 ホール空調機更新工事 空調機の点検で室内機ファンモーターほか経年劣化に伴い多数の機能に不具合があるため、空調機の更新工事を実施する。 ワイヤレスマイク更新工事 当備品は導入後22年が経過しており、経年劣化により頻繁に故障を確認。現時点、応急処置を施しているが生産が終了の部品もあり支障をきたしている。 ホール利用には欠かせない使用頻度が高く早急な対応を行う。マイク更新に併せ受信機及び付随する設備の更新を行う。 <p>○地球科学館管理運営事業【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物北側壁面クラック補修 展示室北側コンクリート壁の劣化が激しく、雨水が染み出している。壁面内に電線も通過しており漏電の危険もあるため修繕を行う。 エレベーター改修 設置から26年が経過しており、エレベーターを支える主ロープ、動力となる油圧装置の交換を行い、来館者の安全確保を図る。

総合計画の位置づけ			現 状 と 課 題	平 成 31 年 度 の 主 な 取 組
基本政策	政策	施策		
生涯活躍・共生社会の実現	文化・芸術を振興する	文化財の保存・活用を推進します	<p>○市内の指定文化財は、県指定13件、指定26件、国登録有形2件、国設定保存技術1件の合計42件である。</p> <p>○これまで指定文化財の大規模修理は未実施であったが、老朽化による損傷が進んでいるものがあり、改修の必要がある。</p>	<p>文化財保存・修理事業</p> <p>○荘厳寺多宝塔 屋根の桧皮について、老朽化が進んでいるため、県と調整し31年度に応急的修理を行う予定であったが、緊急性が高く、県の勧めにより30年度の補正予算を計上し実施する。</p> <p>修繕内容：桧皮葺損範囲について、ガルバニウム鋼板による補修</p> <p>今後の予定：32年度～34年度 荘厳寺多宝塔屋根葺替え補修</p>
		文化・芸術を振興する	<p>○市道市原羽安線改良工事に伴い、大規模な埋蔵文化財発掘調査を29年11月から実施。30年度については、4月から10月にかけて実施した。</p>	<p>埋蔵文化財発掘調査事業</p> <p>○市道市原羽安線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成29～30年度事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査箇所 大木町、野中町 ・調査面積 平成29年度 1,570㎡ 平成30年度 3,390㎡ <p>○発掘調査の結果、弥生時代後期の堅穴住居跡や奈良時代の溝などの生活の痕跡、室町時代の建物の柱跡や使われていた土器などが見つかっている。これらの考古学資料を整理・調査研究し、その成果を広く市民や研究機関等に広く知ってもらうために発掘調査報告書を作成する。</p> <p>30年11月～31年度：整理、調査研究 32年度：発掘調査報告書作成</p>
	人権文化を創造する	<p>○「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会を実施した。 （総参加数1,398名満足度97.3%） 今後は、若い世代の参加や初めて参加した人を増やすことである。</p> <p>○人権教育推進のキーパーソンである人権教育推進委員、人権教育推進員の指導力を高める取組を重点的に行った。</p> <p>○西脇市人権教育協議会（以下、市人教という）を支援するため補助を行っている。人権教育研究大会や市民じんけんセミナーを開催している。また、市人教より各地区人権教育協議会へ補助を行い、各地区の実情に応じた活動を行っている。</p> <p>○1講座（1教室）あたり、平均60名程度の参加がある。障害のある人、様々な国籍の人との交流により共生社会の実現を目指している。</p>	<p>人権文化を進める各種事業</p> <p>○人権教育推進啓発活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間（8月）講演会の開催 ・課題別人権研修会や指導者講座の開催 ・人権教育啓発資料「ゆきちゃんからのメッセージ」作成 <p>○人権教育推進委員等設置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員14名、推進員115名を委嘱する。 <p>○西脇市人権教育協議会補助事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権教育啓発推進法」及び「人権関連3法」の趣旨を踏まえ、人権教育啓発を推進するにあたり、西脇市人権教育協議会の活動を支援するため補助を行う。 <p>○にしわきジュニアじんけん教室事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の人権意識の高揚を目指し、年間20回程度、人権に視点をおいた体験活動を実施する。 	

総合計画の位置づけ			現 状 と 課 題	平 成 31 年 度 の 主 な 取 組
基本政策	政策	施策		
生涯活躍・共生社会の実現	人権文化を創造する	多文化共生と平和の意識を高めます	<ul style="list-style-type: none"> ○にしわきジュニアじんけん教室では、児童生徒の人権意識の高揚を目指し、年間20回程度の体験活動を実施している。そのプログラムの中で、多文化共生社会の実現に向け、国際理解、異文化理解につながる活動を行った。 ○ベトナム料理を作りながら、ベトナム文化にふれる。また、ベトナム国籍の方から見た日本について話を聞く。 ○インドネシアの音楽を通して、その国の文化にふれる。また、インドネシアについての話を聞く。 <p>※平和の意識・・・総合企画課で企画・立案・運営（8月の平和展）</p>	<p>にしわきジュニアじんけん教室【継続】（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○じんけん教室の中で、国際理解・異文化理解につながるプログラムを2～3回程度開催する。 ○本市は東京オリンピック、パラリンピックのオーストラリア卓球チームのホストタウンである。オーストラリアの国について学べるような企画を立案中である。